

国連大学サステイナビリティ  
高等研究所所長賞 受賞

和歌山県立田辺高等学校

高校名	和歌山県立田辺高等学校	所在地	和歌山県田辺市
団体名	生物部		
活動タイトル	鳥の巣半島の生物多様性を守ろう		
活動の分類	授業の一環 高校の有志	授業の課外活動 校外の環境活動団体	生徒会委員会 その他 <b>クラブ活動</b>

<環境活動>

1. 活動のねらいとこれまでの活動（テーマ、ねらい、きっかけ、昨年度までに行ってきたこと、その成果など）

和歌山県田辺市新庄町の鳥の巣半島には、生物多様性に富んだ里山や磯が残されている。  
2014年から生物部では、生物調査を行ってきた。その結果、高等植物や水生生物では絶滅危惧植物が多数見付き、地元の農業や漁業と共存した素晴らしい自然環境が残されていることがわかった。しかし、多数の溜め池で、外来生物のアフリカツメガエル、ミシシippアカミミガメ、アメリカザリガニ、ウシガエルなどが見付かった。アフリカツメガエルに関して日本の野外での研究成果がみあたらなかったため、生物部で研究することにした。  
2015年から、アフリカツメガエルに関して、その分布状況を把握するために、41カ所のため池をすべて調査し、そのうち27カ所のため池でアフリカツメガエルの生息を確認した。  
2016年には、標識再捕法によって生息数の推定を行い、実際に池の水を抜いてその数を確認した。その結果、泳いでいるアフリカツメガエルの生息数は推定できるが、泥に潜っている数はわからず、泥に潜っている個体は水がもとどおりになると産卵するので全滅させることはできなかった。水を抜いて全滅させることを試みたため池は、5カ所である。ほかのため池でも一ヶ月に一回、定期的に罟をかけたり、一度に大量の罟をかけたりして、効果的な駆除方法を模索してきた。



2. 活動の詳細（今年実施した内容、手法、着眼点、地域との連携、協力・協調など）

田辺高校生物部と田辺中学生物部は合計30名の生徒が在籍しており、いつも協力して活動している。土曜か日曜のどちらか、自転車で6km離れた鳥の巣半島にでかけ、生物調査を行っている。定点調査池にしている三カ所のため池には毎月一回罟をかけ、アフリカツメガエルを捕獲してきた。半島内にある41カ所のため池について、水のある池にはすべて罟をかけ、アフリカツメガエルの有無を確認した。  
水を抜いても泥の中に残っている個体があると、そこから繁殖する可能性があることがわかっているため、それを防ぐために水を抜いた後、1cm未満の編み目の網を沈めて、水が戻っても空気を吸いに上がってこられないようにして駆除する計画を立てている。  
鳥の巣半島の自治会の人々には、回覧板で捕獲した数や、鳥の巣半島の生物について情報提供を行ってきたので、調査に快く協力してもらえ、雰囲気になっている。農作業が一段落した12月中旬に、再度水を抜いて、網を沈める計画である。水抜きのためにはポンプ作業をお願いする技術料や、網の代金が必要になるので、環境省のグリーンワーカー事業によってそれを負担していただける可能性がでてきた。作業には、和歌山県自然環境研究会の生物の専門の先生方や、鳥の巣自治会の方々、田辺市役所、白浜町役場、和歌山県自然環境室の係の方々にも協力していただけることになっている。

## <環境活動>

### 3. 活動の成果（今年実施した活動の成果、影響、目標達成、改善度、情報発信など）

鳥の巣半島のため池41カ所すべてを調査し、27カ所のため池でアフリカツメガエルの生息を確認した。生物部で捕獲したアフリカツメガエルの成体の数は約5600個体、オタマジャクシをいれると約7000個体以上駆除したことになる。捕獲できる大型の個体は少なくなり、捕獲数も減ってきているが、全滅させることはできていない。

鳥の巣半島以外のため池でも罠をかけたが、現在のところ鳥の巣半島と繋がったゴルフ場跡の池1つ以外では見つからなかった。鳥の巣半島は内之浦の湿地と、池田湾、県道に囲まれている狭い半島なので、ここからアフリカツメガエルを拡散させてはいけないと思っている。そこで、半島の入り口に近い三カ所のため池で水を抜き、網を使って全滅させる方法を試みる計画をすすめている。今年度から、鳥の巣自治体の回覧板に「かえる便り」という情報を一ヶ月に一回を目安に入れてもらっている。

テレビ東京、テレビ大阪、テレビ和歌山、NHKテレビなどで取材や番組協力依頼があり、生物部員はよろこんで協力してきた。ココリコの田中さんや、バンビーノさんと楽しい思い出をつくることができた。

ザ・鉄腕・ダッシュではアフリカツメガエルを食べる企画があり、鳥の巣の情報やアフリカツメガエルの捕獲方法など情報提供を行った。

朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、紀伊民法、田辺市広報、FM田辺などの取材に応じたり、田辺市のイベント活動報告をしたりして、情報発信を心がけている。

### 4. 活動からの学び（今年実施した活動を通じて学んだこと、今後の計画や目標など）

鳥の巣半島にすばらしい里山の自然が残っていることを知っている人が多くなったことは大変うれしいことである。和歌山県立自然博物館からも調査に来ていただき、今も続けて詳しい調査を行っている。同時に、鳥の巣半島にアフリカツメガエルが繁殖して外来種問題が発生していることも多くの人々に知ってもらえて良かったと思っている。溜め池の数が多くて、駆除の活動はまだ成功していないが、この問題について認識してもらえる雰囲気になっている。

テレビ番組で放映されたことは、大きな励みになった。特に、田辺市の広報で「外来種問題」を取り上げていただいたことで、田辺市の全戸に情報が行きわたり、生徒たちも身近な人々から励ましのお言葉をたくさんいただいている。使命感を感じつつ、今後も努力してできるだけ撲滅に近づけるようにする決意をもっている。

地元のみなさんの協力が必須であることは、強く感じているので、来年度は鳥の巣自治体のみなさんと協力して、罠をかけ続け、環境省など、この活動にご支援をいただけるところから資金をいただき、計画的に水を抜いて網を張り、アフリカツメガエルを駆除していく計画である。

目標は、鳥の巣半島からアフリカツメガエルを拡散させずに駆除することである。

以上